

北海道千歳市の中でも中心街から遠く離れた田舎で育ちました。小学生の頃は、森の中に秘密基地を作り、カエル・カナヘビを見つけては家で観察したりして遊んでいました。伸び伸びと過ごした幼少期を経て、大学では水産工学を勉強し、漁港・港湾の仕事なら学んだことが活かせると思い現在の会社に就職しました。技術士試験は建設コンサルタントとして働くならば、管理技術者にならなければいけないということで、受験を決断しました。初受験はまさかの問題を間違える失態により落ちてしまったわけですが、周囲の協力のおかげで2回目で合格できました。働き始めてまだ8年しか経ってない若造ですので、わからない事を先輩に聞きながら自己研鑽に取り組んでいる日々です。

さて、3月頃、アフリカの発展途上国で働く後輩と会う機会があり、現地の生活状況を聞きました。現地では水道等の生活インフラや舗装された道路も無く、政治は反政府組織が暗躍して内戦状態にあり、とても経済成長が期待できる状態にないとのことでした。このような国と比べて、日本のように国土の隅々までインフラ環境が整い、治安が良く、餓死者が出ない程充実した社会保障が整備されているのは、長い歴史の中で努力してきた先人達のおかげであることを忘れてはいけなと感じました。

これから少子高齢化がいよいよ深刻な社会問題となる中で、厳しいながらも次世代の後輩達に恵まれた環境を残すことは、利益を享受してきた私達一人一人の課題であると思います。大きな話になりましたが、これからも技術士として次世代のためにも仕事に向き合って、コツコツと頑張っていきたいと思っています。

小竹 元己(こたけ げんき)

●水産部門(水産土木)

勤務先

株式会社クマシロシステム設計



⇒次号は、木戸結菜さん(建設部門)

建設コンサルタントとして、29年目を迎えました。大学の卒業研究テーマが「遺伝的アルゴリズムを用いた送電鉄塔の最適設計」であり、研究がきっかけで建設コンサルタントの道に進むことになりました。建設コンサルタントの仕事は何も知らずに入社した当時の私は、設計の実務では構造計算から作図まで自動化されているものと思い込んでいました。しかしながら、入社して最初の仕事は、200枚近くある横断図のマイラー用紙(擁壁がすでに型入れされた茶色の第2原図。若い人には伝わらないかも。)に仮設大型土のうを手書きでひたすら型入れするというもので、途方に暮れたことを覚えています。

昨今は、道路や構造物の自動作図や自動数量算出などができるようになり、便利にはなりましたが、新規道路の建設は減り、現道の改良など特殊な現場条件での設計を行うことが多くなってきたため、現場毎に頭を悩ませながら設計を行っているところです。

最近では、詳細設計でBIM/CIMが原則適用となり、説明資料に3Dモデルや4Dシミュレーションモデルを使用することが当たり前になってきました。次は生成AIの活用か・・・などと考えていると、少し憂鬱になってきますが、いくら周辺技術が発達しても、設計のプロセス自体は昔から変わっていませんので、新しいツールを取り入れつつ、基本的な土木技術の研鑽に努めたいと思います。

エンジニアパークの投稿を同じ会社で3人もリレーしてしまったので、次は別の会社の方にバトンタッチしたいと思います。

古田 勝章(ふるた かつあき)

●建設部門(道路)

勤務先

株式会社土木技術コンサルタント



⇒次号は、佐々木香織さん(建設部門)